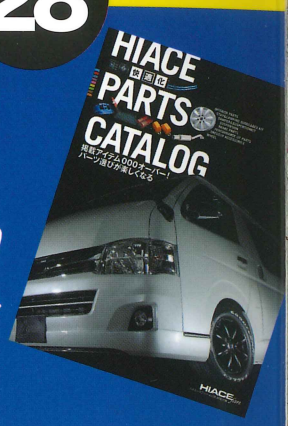
ハイエースファン キャンピングカー＆トランスポーター＆ドレスアップユーザー必見！ vol. 28

TOYOTA new

# HIACE fan

クエスメディアムック417




別冊付録

掲載アイテム300点オーバー！
パーツ選びが楽しくなる
## ハイエース快適化パーツカタログ

乗れて、積めて、くつろげて、そしてカッコいい！

# ワイドボディの魅力徹底解剖

LONG MIDLLE ROOF
SUPERLONG HIGHROOF

車内レイアウト図で見やすい！
最新＆定番
モデル完全詳解
25台

注目の用品からオーナーの楽しみ方まで
200系ハイエース
365日使い倒しガイド

Jクラブも愛用!!

3代目になるフューチャー、大きな変更点はリヤに2段ベッドが設置されたことだが、基本的なレイアウトそのものはこれまでのモデルと変わりはない。ただ、ベースがハイエース200系スーパーロングになったので、根本的な室内容積はかなり増えている。また、室内幅が拡大したことで、これまでダイネット上だった2段ベッドをリヤに横向き設定で設置できるようになったのである。

フューチャーを選択したオーナーは、その1モデルを長いこと乗り続けている場合が多い。そこには理由があって、フロアを徹底的に平面を出し張り込んでいることがありそう。しかもビスなどを使わず、接着による工法を独自開発。

そう、車体そのものへの加工を極力抑え、耐久性を高めるという発想だ。もちろん、フラット面が出ているフロアに建て付けられる家具は、土台が安定しているのでしっかりと組み込め、走行時などにきしみ音が出ない結果を生み出す。

室内レイアウトはサードシートが対面のコの字レイアウト。もちろんセカンドシートは前向きになるが、スタンダードだからこそ使い勝手はよく、ベッドへの組み替えもだれがやっても悩まないし、実際の作業もかなり楽なことも、長期に渡り飽きがこない部分だろう。

## ロングセラー研究

# LongSeller Future

長期間製造され続け
市場に相当数出荷された
ところが中古車として
入手することはきわめて困難
フューチャーのその状況が
確固たる人気の安定度を
物語っているといえる

文=鈴木康文　写真=aja-co

### ユーザーの年齢層は30~60歳と幅が広い

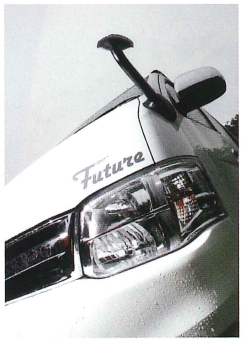
最大の特徴であるアーチ部は、当初クローゼットとして作られテレビデオが埋め込まれていました。それは、しっかりとした収納庫を用意したかったからです。現在は薄型テレビになったので収納量自体は少なくなっていますが、これまでどおりスピーカーも埋め込み、2ルーム的に使えるようにデザインしています。イメージとしては扉のようなもので、フューチャーを特徴付けている部分です。

ビークル店長
**濵中りょうじ**

# Future Exterior

## エクステリア

ビークルのクルマ作りは、極力ベース車両に手を入れないこと。目を皿のようにして見渡しても、フロア下にもビスなど飛び出ていないし、わずかに外部電源の取り入れ口が装着されている程度だ。そのため、ロゴが入っていなければまるで通常のハイエースのまま。いかにもキャンピングカーというのが苦手な人も多いので、スッキリ感は評価が高い部分だ。



●見た目はノーマルのままだが、そもそものベース車両が大きく、最小回転半径がかなりあることから、展示車を見に来てその場で気に入っても、駐車場事情などの理由からすぐに手にできない場合もかなりあるという

**主要諸元**

ベース車両：スーパーロングワイドボディハイルーフキャンパー専用車
価格：440万8100円～
■標準装備：シンク／カセットコンロ／10ℓ給排水タンク／1ウェイ49ℓ冷蔵庫／LED室内照明／シート下収納庫／ドーム収納ボックス／遮光カーテン／105Ahサブバッテリー／走行充電システム／ベンチレーターほか
㊐ビークル
埼玉県草加市谷塚町1080-18
☎048-927-5678
http://vehicleweb.co.jp/

# フューチャーは変わらない

●一時期、キャラバンベースでもフューチャーは同様に作られていた。これは、ビークルと日産との強いつながりがあったからでもあるが、結果的に室内長の関係から、ハイエース1本に落ち着いていくのはいたしかないところであった

**主要諸元**

ベース車両：100系ハイエーススーパーロング
乗車定員：7人／就寝人数：3人
価格：298万円（発売当時）

# Model History

## モデルヒストリー

基本的に、ベース車両に変更があったときに新型になってきたが、それ以外にも毎年細かい部分のバージョンアップは行なわれ続けている。

## Future 1989

### 実験と考察を重ねた1号車は社長自らが乗る

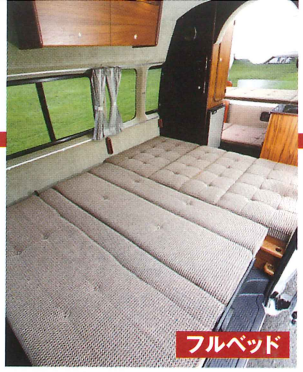
フューチャーは、ビークルが最初に世に送り出したカタログモデル。その前のモデルはほとんどワンオフで作られてきたもので、その集大成として完成したのだ。そのため当時としては、きちんとカタログがあるモデルとしては相当珍しい存在であり、広告展開も含めユーザー層に与えたインパクトはかなり強烈だったのは間違いないところ。

このあと続々と製造されていくが、家族を乗せビールサーバーを片手に日本中を走りまわる社長の姿は、発売当時を知るものには有名な光景でもあった。

# Future Interior

## インテリア

室内は、初代モデルからフルトリムを実現しているが、その張り方には特徴的な手法が取り入れられている。また空気の流れを考え、張り込まれた生地に汚れが付かないよう配慮されている。それを可能にしたのも、同じレイアウトで作り続けてきたからこそであり、ロングセラーモデルの最大のウリでもあるといえる。




●ベッドへの展開はいたってスムーズ。ワイドボディを使用しセカンドシート幅が拡大したので、ベッドスペースはモーターホームの専用ベッドに迫る勢い。大人2人なら十分なクイーンサイズ以上だ

●オーバーヘッドキャビネットを装着したため、2段ベッドはリヤに移設。これも、ワイドボディで室内幅が広がったから変更できた点。マット類を取り外せば、巨大トランクルーム

●テレビは薄型になったが、冷蔵庫をキャビネット内に設置したので、クローゼットとしての収納力も十分確保している。スピーカーは従来どおり、このアーチ部に埋め込みマウント

●3代目になって見直したのが、収納力の増強。そのため、オーバーヘッドキャビネットを大型にし、ダイネットまわりの日用品が余裕を持って収納できるようになった

●キャビネット天板左部分は、スライド引き出し式になっていて、必要なときに写真のようにセットする。荷物が多いときはこれを収納しておけば、さらに荷物が載せられるという寸法だ

●アーチ部キャビネット下に冷蔵庫を設けることで、車体後部をトランクルーム化することもできたので、普段使いで荷物が多くなったときも安心の収納力を確保できるのだ

●特徴的なアーチ部分は、現在では完全な飾りともいえるが、これを使って2ルームにするのは、だれにでも簡単な作業。室内容積が上がったので、2ルーム化への効果は大きい

ロングセラー研究

# LongSeller Future

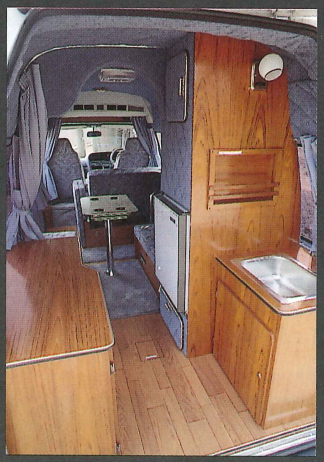
## 時代は変わっても、

## Future 2006

### 発売以来毎年 細かな仕様変更を敢行

現行モデルはその巨大な室内容積から、これまでのフューチャーが持っていた囲まれ感とは違う、ゆったりとした雰囲気が室内に漂っている。その分、運転や駐車にほんの少しだけ気を遣うのは否めない。

それを差し引いても、もともと完成度の高いパッケージを、ユーザーからのフィードバックなど目に見えない部分で改良を重ねているのは事実で、魅力はさらにアップし続ける。



## Future 1993

### 専用シャシーの登場で 出荷台数は飛躍的アップ

100系にキャンピングカー専用シャシーが用意され、その後に3ℓディーゼルターボも登場。この時代が明らかに1ボックスベースバンコンの最盛期といっても過言ではない。次々と各メーカーから新型が登場してくるなか、基本に忠実なフューチャーは安定した人気を確保。同社内でもブランドが増えていくなかでも着実な販売台数を記録し続けた。そのさまは、定番車の力強さそのものである。